



2011年8月10日発行 (季刊)

特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社

〒160-0021 新宿区歌舞伎町 2-19-13 A S K ビル 601

TEL 03-3204-4342 FAX 03-6457-6202

E-mail npo@hitomachi.org URL : <http://www.hitomachi.org>

郵便振替口座 00170-6-410791 市民シンクタンクひと・まち社

## 安全な生活を求める市民活動の高まり

山本 和恵 (ひと・まち社理事 大田区在住)

4月5日大田区内で開催した田中優さん講演会「福島原発の事故から学ぶ～被災地復興のために私たちにできることは～」には多くの人が情報を求めて集まりました。3月12日に起きた福島第一原子力発電所1号機建屋の水素爆発事故以降、東京近郊においても放射能汚染に対する不安は広がっていましたが、政府は一貫して部分的な発表に留めており、事故や汚染の規模について全容が伝わるものは報道されていない状況でした。一方、インターネット上には噂を含む様々な情報が流れており、不安が煽られていました。この講演会は、放射性物質について正しい情報を多くの人に分かりやすく伝えたいと、市民団体を軸に講師を探して開催したものです。告知は短期間でしたが、開催当日まで問い合わせは絶えませんでした。会場には、子どもを背負った若い母、妊婦、青年などが東京の各所、千葉、神奈川からも足を運び、準備した座席はすぐに埋まりました。さらに続く来場者は、席がなくても話を聞きたいと帰る人はいませんでした。講演は、原発推進の背景、稼働状況、事故の経緯と規模、今後展望したいエネルギー政策と各所の先駆例、内部被爆を避けるための食習慣などが画像とともに紹介されました。ビールに除染の力があるとの話は緊張した場内の空気を一瞬和ませたように思います。終了間際に子どものお迎えがあるからと退室した若い女性は、子どもが通う保育所から放射能汚染を大変心配する自分は特別視されており、神経質になり過ぎてはいけないと保育士から諭され、水筒や弁当の持参を認めてもらえないと話してくれました。「でも、どこにも逃げ場はないから友人に今日の内容を

伝えて、保育士と一緒に考えられるよう働きかけた」と硬い表情で帰って行きました。

信頼できるはずの政府や自治体からの情報が不十分であると、問題を捉えようとする人の間に不信感が生じる可能性があることがわかります。若い母親が憂慮していた保育所とのやりとりは、子どもの健全な成長を願っている両者が、問題意識を共有できない危険性をはらんでいました。異例の事態が起こるといことは身近なところにもたくさん存在します。一人ひとりが事実を捉える努力をし、でき得る方策について課題を共有する人と一緒に考えるという行程は簡単なことではないかもしれません。しかし、将来の社会のあり方が、小さな判断の積み重ねにより成り立つとするならば、おろそかにしてはいけない場面であると考えさせられる母親の発言でした。

さて、講演会を軸となって企画した市民団体「未来につなぐ大田まちづくりの会 “まち井”」は、田中優さん講演会に続き2回にわたるワークショップを計画しており、自治体における防災計画市民案の策定を目指しています。市民が自ら考え参画していこうとする意識の高まりへつながってほしいと思います。

